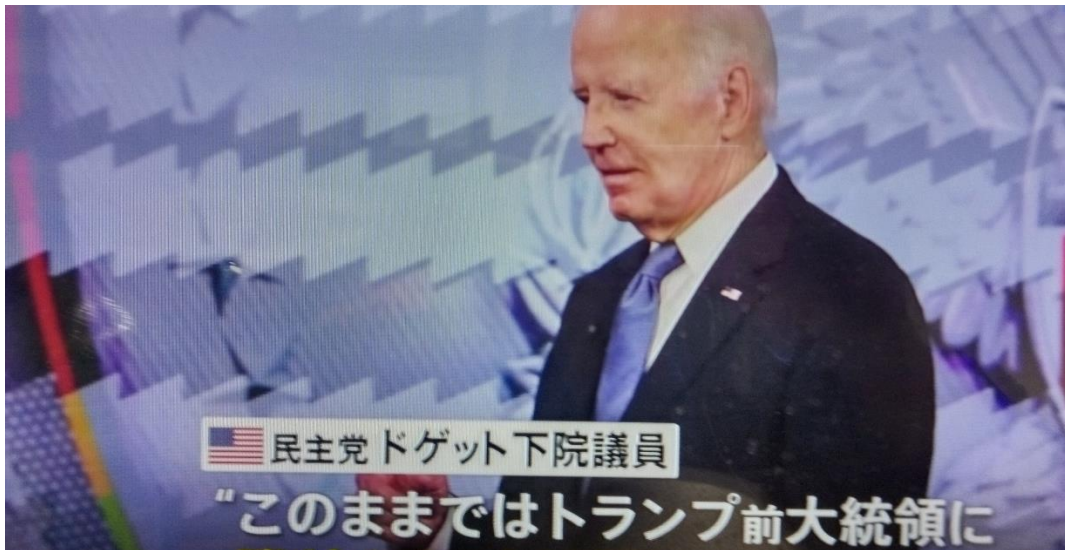


7月5日のウクライナ情報

安齋育郎

① バイデン氏“撤退論”収まらず 現職民主党議員から撤退求める声明 | TBS NEWS DIG(2024年7月3日)

<https://youtu.be/znWEN9TgHH4>



<https://www.youtube.com/watch?v=znWEN9TgHH4>

② ウクライナはNATOに加わるにはあまりにも腐敗していると言われる



https://pbs.twimg.com/media/GRjEKO0b0AE_gsf?format=jpg&name=small

③ ウクライナの富裕層はキエフでパーティー、貧困層は前線に送られる

<https://x.com/i/status/1807789083235688513>



<https://x.com/jacksonhinklle/status/1807789083235688513?s=09>

④ウクライナがベラルーシに攻撃する？(2024年7月3日)

ウクライナUAはベラルーシBYの国境付近に軍を集結させてる。

ベラルーシは緊急に厳戒態勢。

先日ゼレンスキーが「ベラルーシも EU 加盟」とか意味不明な発言をした。

パルチザンの子孫で真面目で謙虚なベラルーシ人は EU 加盟を望んだこともなく、特にウクライナの「EU 加盟」状況を見てからは尚更。

ゼレンスキーがどんな幻覚見たのか不明だが、現在「ベラルーシの解放」を夢見てる。ベラルーシ解放すれば西側のパートナーから褒められると思っ込んでる。

ウクライナはベラルーシを攻撃、侵攻する可能性が高まっている。

ベラルーシはプーチンみたいにゆっくり穏やかな報復はせずに、核を使うであろうとの予想が出てる。

賞味期限切れの薬中本当に迷惑すぎる ❌

動画はウクライナがベラルーシ周辺準備完了と流してる動画

<https://x.com/i/status/1808332668645658880>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1808332668645658880?s=09>

⑤ ウクライナ危機は米国とその同盟国が引き起こした＝露国防相(2024年7月4日)

米国とその同盟国によって引き起こされたウクライナ危機は、今や彼らが意図的に長引かせている。ロシアのアンドレイ・ベロウソフ国防相が3日、ミンスクで開かれた独立国家共同体(CIS)国防相会合で述べた。



https://x.com/sputnik_jp/status/1808495204816871884?s=09

⑥ ゼレンスキー氏、紛争終結計画を明らかにするようトランプ氏に求める(2024年7月3日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は、トランプ前米大統領のウクライナ紛争解決に向けた提案をめぐり、その詳細についてトランプ氏と協議する用意があると表明した。ゼレンスキー氏がブルームバーグのインタビューで述べた。

ブルームバーグによると、ゼレンスキー氏は、トランプ前米大統領と会談して同氏のチームの提案に耳を傾ける「用意が可能性として」と述べた。またゼレンスキー氏は、11月の米大統領選挙後に米国が軍事支援を継続するかどうかについても知りたいと語ったという。

これより先、トランプ氏は、米大統領選で勝利した場合、2025年1月の就任前にウクライナ紛争を解決すると約束した。メディア報道によると、トランプ氏には紛争を平和的に解決するための詳細な計画があるが、選挙前に公表するつもりはないという。



<https://sputniknews.jp/20240703/18753005.html>

〈関連情報〉

<https://twitter.com/i/status/1808512005436817728>



<https://sputniknews.jp/20240703/18753005.html>

⑦米国、ウクライナに追加支援 23億5000万ドル＝米国防総省(2024年7月4日)

米国はウクライナに対する新たな軍事支援として、自国の在庫から1億5000万ドル分の兵器を供与するほか、「ウクライナ安全保障支援イニシアティブ(USAI)」の資金を利用して22億ドル分の新しい兵器を購入する。総額は23億5000万ドル(約3798億9000万円)。米国防総省が発表した。

プレスリリースによると、米国はウクライナ向けに防空システム「パトリオット」や「NASAMS(ネイサムス)」の弾薬を購入する予定。また、米国の在庫から防空システム「ホーク」のミサイル、高機動ロケット砲システム「ハイマース」の弾薬などが供与される。

ホワイトハウスのカービー戦略広報調整官は6月、米国は同盟国の利益を犠牲にして「NASAMS」や「パトリオット」をウクライナに優先して提供すると発表していた。



<https://sputniknews.jp/20240704/235000-18754106.html>

⑧露軍、「グレーゾーン」でウクライナ軍を退ける＝ヘルソン州知事(2024年7月3日)

露ヘルソン州のウラジーミル・サリド知事は、スプートニクのインタビューで、ロシア軍がドニエプル川の三角州地帯(ドニエプル・デルタ)でウクライナ軍を排除しており、ウクライナ側は陣地を築けないでいると話した。

ドニエプル・デルタはロシア、ウクライナ両軍の支配地の間にあり、その気象条件、地理的条件からどちらの統制もきかない「グレーゾーン」となっている。



https://sputniknews.jp/20240703/18751808.html?rcmd_alg=collaboration2

⑨カールソン氏、ゼレンスキー氏とのインタビュー実現を示唆(2024年7月4日)

米ジャーナリストのタッカー・カールソン氏はSNS・X上で、ゼレンスキー氏とのインタビューがまもなく掲載されるかもしれないと発表した。

「ゼレンスキー氏のインタビューが実現しそうだ。我々は2年前から、そして2月にプーチン氏にインタビューした後、特に熱心に取り組んできた。目的は、米国が世界における自国の立場を完全に変わらざるを得ない紛争について、米国民が切望していた情報を提供することだ。近いうちに実現することを期待している」

カールソン氏は4月、何度もインタビューを求めたがゼレンスキー氏は無視したと報告していた。

今年2月、カールソン氏はプーチン大統領にインタビューを実施。その中でプーチン大統領は、2022年のウクライナとの交渉はほぼ完了したが、ロシア軍がキエフから撤退した後、ウクライナ側はすべての合意を「破棄」し、ゼレンスキー氏はロシアとの交渉を法的に禁止したと指摘。プーチン大統領は、ロシアが交渉を拒否したことは一度もないと繰り返し述べた。



<https://sputniknews.jp/20240704/18754914.html>

⑩ウクライナ ロシアとの一時的な停戦を促す動きに警戒(2024年7月4日)

ウクライナのゼレンスキー政権は、ロシア寄りのハンガリーのオルバン首相がウクライナを訪れるなどロシアとの一時的な停戦を促す動きが出ていることに関して警戒を強めています。

ロシア寄りのハンガリーのオルバン首相は 2 日、ウクライナの首都キーウでゼレンスキー大統領と会談し、ロシアとの一時的な停戦と和平交渉の開始を検討するよう促したことを明らかにしました。

停戦をめぐる提案についてウクライナのポドリャク大統領府顧問は 3 日、ロシアは仲介者たちを通じてウクライナに戦闘をやめさせるという要求を通そうとしていると指摘しました。

その上で「攻撃されている国に一方的な停戦を迫るというキャンペーンに関わっている人たちとは何なのか」と警戒や反発を強めています。

また、ロイター通信によりますと、ウクライナ大統領府のイエルマク長官は 2 日、訪問先のアメリカの首都ワシントンで、自身が大統領になれば戦争を 24 時間で終わらせることができるなどとするトランプ前大統領の発言を巡り「領土の一体性や主権といった非常に重要なことで妥協するつもりはない」と述べたということです。

ゼレンスキー政権は、来週開かれる NATO＝北大西洋条約機構の首脳会議を前に多くの高官をワシントンに派遣しています。

ウクライナとしては、アメリカ側に対して軍事支援の強化を求めるほか、ロシア軍の撤退などを盛り込んだ、ウクライナ提唱の和平案を実現することが重要だとする立場についても改めて理解を求めるとみられます。

⑪ウクライナは NATO に加盟するには腐敗しすぎていると言われる(2024年7月2日)

ウクライナは、現在、NATO に加盟するには腐敗しすぎていると言われ、ウォロディミル・ゼレンスキーにとって大きな打撃となるだろう。

米務省の高官によると、同盟は加盟交渉が進展する前に、キエフに「追加措置」を要請する予定だという。

この立場は、7 月 9 日に開催される NATO の年次首脳会議で署名される NATO コミュニケに書面で記載される。

「我々は一歩下がって、ウクライナが過去 2 年以上にわたって改革の名の下に行ってきたすべてのことを称賛しなければならない」と当局者はテレグラフ紙に語った。

「彼らが改革を続けている中で、私たちは彼らを称賛し、特に腐敗防止の分野で取るべき追加的な措置について話し合おうとしています。それはテーブルを囲む私たちの多くにとって優先事項です」と情報筋は付け加えた。

ウクライナのゼレンスキー大統領は、将来の侵攻から身を守るため、戦争終結後の速やかな NATO 加盟を推し進めている。そうすれば、アメリカとヨーロッパは、ロシアが攻撃した場合、キエフの防衛に向かわざるを得なくなるだろう。

しかし、ウクライナに西側軍事同盟加盟の具体的なスケジュールを提示するかどうかをめぐる NATO 加盟国間の最近の協議では、汚職が障害となっている。

テレグラフ紙は最近、ウクライナの NATO 加盟に向けた「不可逆的」な道を書面に残そうとするイ

ギリスとヨーロッパの取り組みを、アメリカが阻止していることを明らかにした。

ウクライナはソビエト連邦の解体以来、特に軍隊の腐敗に苦しんできた。

ゼレンスキー氏は、特に防衛調達分野で問題を抑制する取り組みの一環として、軍の司令官を解任しました。



<https://www.telegraph.co.uk/world-news/2024/07/02/ukraine-to-be-told-it-is-too-corrupt-to-join-nato/>

⑫ロシア、欧州にガス供給継続の用意 経由のウクライナ次第と副首相(2024年7月4日)

[モスクワ 3日 ロイター]ロシアのノバク副首相は、ウクライナ経由で欧州にガス輸送を輸送する現在の協定が年末に期限を迎えた後も供給を継続する用意があると述べた。複数のロシア国営通信社が3日報じた。

ウクライナ経由で欧州にガスを供給する契約は戦争状態にあるロシアとウクライナの間で唯一残る貿易・政治協定で、2024年12月31日に5年の期限が切れる。欧州へのガス供給はロシアの重要な収入源だったが、22年2月のウクライナ侵攻以来大幅に減少している。

国営通信RIAはノバク氏の発言として、「経由の輸送はウクライナ次第だ。彼らには独自のルールがあり、その希望次第になる。ロシアには供給の用意がある」と伝えた。

ウクライナはロシア国営天然ガス独占企業ガспロムとの契約について、延長や新たな契約に調印する計画はないと表明している。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/62f21a1d384253ac5f28f811760c1c9492f9a278/images/000>